

環境活動レポート

2×××年度
〇〇△△株式会社

ごあいさつ

21 世紀は、環境の時代といわれています。20 世紀に花を開いた科学文明の発達によって人類は生活上物質的な利便さを享受してまいりました。反面、大量生産・大量消費・大量廃棄の生活パターンなどによる地球環境破壊が進み、私たちの子孫に「負の遺産」を残すことになりました。

私たちは現在と未来の生活バランスを考慮し、全ての人たちが協調することによって「地球環境問題」に対応しなければなりません。

当社は産業廃棄物の収集運搬・処理を主要事業としていく中で、少しでも環境面の負荷を減らしてクリーンな地球を子孫に残すべく努力をしていくことを経営の基本理念として取り組んでまいります。

ここに、本年度の当社環境改善活動の結果をご報告し、みなさまのご意見をあおぎたいと存じます。

2×××年△〇月
〇〇△△株式会社
代表取締役社長
環境太郎

〇〇△△株式会社 環境宣言

基本理念

〇〇△△株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方針

〇〇△△株式会社は産業廃棄物処理等に係わる全ての事業活動における環境影響を低減するために次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動及びサービスに係わる環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動及びサービスに係わる環境関連法規、その他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動及びサービスに係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 電力使用量の削減
 - (2) 用水の削減
 - (3) 廃棄物処理に係るクレームの削減
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知するとともに社外へも公表します。
5. 地域の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメント活動を推進します。

制定日 2×××年〇月△×日
 〇〇△△株式会社
 代表取締役社長
 環境太郎

■会社概要

事業所名 : 〇〇△△株式会社
 代表者氏名 : 代表取締役社長 環境太郎
 所在地 : 〇×市△〇区□〇町××番地
 事業内容 : 1. 産業廃棄物の収集運搬、並びにリサイクル及び中間処理
 2. 一般廃棄物の収集運搬、並びにリサイクル及び中間処理
 資本金 : 〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
 売上高 : 〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇円
 従業員数 : 〇〇名 (内 パートタイマー〇名、派遣社員〇名を含む)
 敷地面積 : 〇〇〇〇平方メートル
 延床面積 : 〇〇〇〇平方メートル
 沿革 : 〇〇〇〇年〇月設立

許認可一覧

許可の内容	事業の内容と能力	有効期限	自治体名
産業廃棄物処分業許可番号： 許可年月日：	破碎 265t/d 廃プラ溶融 1.6t/d	〇〇年〇月〇日	〇〇市
一般廃棄物処分業許可番号： 許可年月日：	生ゴミの堆肥化 保管科量 44.1m3	〇〇年〇月〇日	〇〇市
廃棄物再生事業者登録	①金属くずの再生 ②廃プラスチックの再生	〇〇年〇月〇日	〇〇市

廃棄物処理業者 KES/IGES 相互認証用環境活動レポート雛形

産業廃棄物収集運搬業許可番号： 許可年月日：	有効期限：〇〇年〇月〇日 自治体名：〇〇府、〇〇市、△△県、△△市、□□町
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可番号： 許可年月日：	有効期限〇〇年〇月〇日 自治体名：〇〇府、〇〇市
一般廃棄物収集運搬業許可番号： 許可年月日：	有効期限：〇〇年〇月〇日 自治体名：〇〇市、△△県

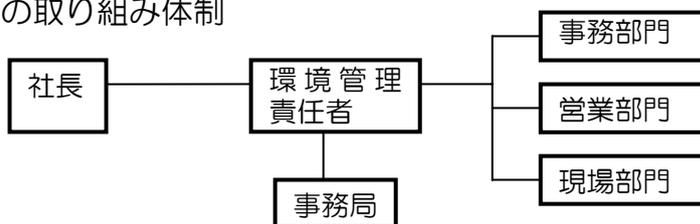
事業の規模

処理実績	単位	2003 年度	2004 年度	2005 年度	
廃棄物取扱量（総物質投入量）	t	〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	

廃棄物の処理料金

運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積もりをおこなう。

I. 環境活動の取り組み体制



環境管理責任者：〇〇 〇〇

担当者連絡先：〇〇 〇〇 (TEL：_____、FAX：_____)

II. 環境審査・登録内容

KES登録証

登録日：2×××年〇〇月〇〇日

登録番号：KES1-〇〇〇〇

III. 環境活動の内容と実績

2×××年度環境改善活動実績

環境改善目標	具体的方策	目標値	実績値	評価
電力使用量 2×××年度比 2%削減	・スイッチの適正管理 ・休憩時間の消灯確認 ・設備の休止時電源オフ	〇〇kwh	〇〇kwh	A
用水の削減 2×××年度比 2%削減	・雨水の利用 ・生活水での節水ゴマ活用 ・設備洗浄方法の指導	〇〇l/年	〇〇l/年	B
廃棄物処理に 係るクレーム 件数の削減 2×××年度 比 10件以下	・教育の実施 ・苦情惹起者への再教育	〇〇 件/年	〇〇 件/年	C

評価記号 A：良好（100%以上） B：やや不足（90～100%） C：不適合（90%以下）

IV. 具体的環境活動の評価

- ☆ 電力使用量の削減では、照明や空調設備について部屋ごとに消灯や運転温度の基準を作るとともに確認のための担当者を決めて実行し、確認記録を環境管理責任者が定期的にチェックをした。
最初のうちは実行がばらついたが、次第に各人が意識し、習慣化して管理するようになっていった。
- ☆ 用水の使用については、従来、設備の洗浄等で水を出しっぱなしで作業をするなど、無駄が多かったが作業の方法を標準化し指導を徹底した。各自節水を心がけるようになり大幅に使用量の削減が実現しつつある。
- ☆ 作業に関するクレームについては、従業員の作業に関する知識と方法等の教育を徹底した。また、苦情を受ける率の高い従業員については、教育担当者が同行してどこが問題なのかを認識させ、再教育を実施することによって徐々に効果を上げつつある。

V. 環境関連法規の順守状況

当社の事業活動に制約を受ける環境関連法規制等については、順守状況を定期的に確認し、関係機関からの指摘・訴訟等は無かった。

VI. 2×××年度活動についての今後の課題

電力及び事務用紙使用量の削減については細かい基準を作成し徹底して管理した結果、大きな削減成果を得た。しかし用水節減については、教育の成果が実現途中にあり、目標達成に至っていない。又、作業に関するクレーム件数の削減については、即効果が表れていないが今後更に教育等の徹底に努める。

来年度については、今年と同じ目標を掲げ、レベルアップしたい。

- ・ 電力使用量の削減については、創意工夫で更に実績を上げる。
- ・ 使用量削減については、一層の意識徹底を図り、再度チャレンジする。
- ・ 作業クレーム件数削減については、本年度の教育効果が発揮されることを期待する。

尚、来年度は次の年のテーマ設定のための予備調査項目をサブテーマとして掲げること検討している。次年度テーマとしては極力本業に係わる内容のものを取り上げていくことを検討する。

Ⅵ. 第3者の証明・意見（必須ではない）

1. 審査機関の証明

〇〇△△株式会社の審査を担当し、Ⅲ項のデータが正確に記載されていることを確認しました。また、同社がトップから従業員全員に至るまで環境保全の意識が極めて高く、環境宣言達成のために継続的に努力されていることを認めます。

KES 主幹審査員 凸川凹夫

2. コミュニケーション（利害関係者の感想）

〇〇△△株式会社が KES 環境活動に取り組み始めてから従業員の方が自分の家庭でも電気や水の無駄遣いについて関心をもって日々対処されていることをお聞きし、我々も賛同して運動を広げています。素晴らしいことです。又、最近廃棄物収集運搬車の運転が以前に比べて丁寧になり、静かで安全になったことは嬉しいことです。

町内会長 ○山次郎